

学校だより 令和7年1月号



文蔵小通信



さいたま市立文蔵小学校

336-0025 さいたま市南区文蔵5-16-29

TEL 863-0721 FAX 836-1583



【文蔵小ホームページ】

本日ただいま誕生

校長 渡邊 勝利

あけましておめでとうございます。本日より3学期が始まりました。子どもたちは楽しかった冬休みの思い出とともに、新しい年への期待を胸に登校してきました。元気な子どもたちの声が響き、活気のある学校生活のスタートです。今年も保護者の皆様、地域の皆様のご支援・ご協力をいただきながら、職員一同力を合わせて最善を尽くしてまいります。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、11月30日(土)に「文蔵小まつり」が5年ぶりに開催されました。PTA 主催のもと、ボランティアとして児童51名も参加してくれました。体育館や一部教室を使って、「エコバック作り」「スライム作り」「お菓子販売」「文蔵かるた」「缶釣り」「輪投げ」「バザー」が行われました。各コーナーとも溢れんばかりの人だかりで、整理券が取れなかったり、時間がなく回り切れなかったりする人もいたほどです。学校中に笑顔や歓声が絶えない盛況ぶりでした。そんな中、奮闘したボランティアの児童の様子を一部紹介します。

- 【お菓子販売】お金の大切さや仕事とは何かを学ぶことができました。
- 【エコバック作り】率先して声を掛けることができ、スムーズにお客さんの入れ替えができました。
- 【輪投げ】整列、輪を渡す、点数を教える、輪を拾うなど、児童が全て仕切ることができました。
- 【缶釣り】整列させたり、大きな声掛けをしたり、難しい仕事を頑張りました。
- 【文蔵かるた】難しい漢字や古い地名など、上手に読むことができました。
- 【バザー】声を出して売り込みをしたり、混んでいる売り場を手伝ったり、売り上げに貢献しました。
- 【スライム作り】様子を見ながら、材料を準備したり声掛けをしたり、自分から動くことができました。

今年度の本校の課題の一つに、「地域の一員として自分にできることを考え、行動できる」児童の育成があります。ここ数年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、地域への関わりが希薄化している傾向が見られました。11月に実施された「学校評価」においても、「地域への関心」に関する回答は、肯定的評価が教職員72%・保護者41%・児童72%であり、昨年度より減少しています。文蔵地区は本来、学校と地域との関わりが強い地域です。多くの方から「文蔵の子どもは文蔵で育てる」と心強い言葉を掛けられてきました。毎日の立哨指導や長期休業中の地域巡回、スポーツ少年団、学校運営協議会、あいさつ運動等、多くの場面で学校を支えてくださり、文蔵の伝統は引き継がれていると考えています。

そのような状況での文蔵まつりの開催でしたが、多くの保護者や児童と話をする機会がありました。話しかけた全員が「楽しかった」「やって良かった」と笑顔で話してくれました。後日、ボランティアの児童を集めて行われた「報告会」においては、「これからも地域の行事やボランティアに参加してみたい」と発言する児童が多く見られました。行事への積極的な参加を通して成長していく児童の姿を見ることができ、頼もしく感じました。PTAの皆様も、開催に向けて企画・準備・運営等にご尽力いただき感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度も残り3ヶ月です。本日の始業式では、小沢道雄さんというお坊さんの話を紹介しました。小沢さんは2本の足のどちらも膝から下がなかったので、「足なし禅師」と呼ばれていました。戦後、命がけで日本に戻りましたが、日本での生活は大変でした。家族が食べるために必死に働いていたのに、自分は何もできなかったからです。何度も死んでしまいたいと思ったそうです。しかし、27歳のある時ひらめきました。「27年前に生まれたことをやめにして、今日生まれたことにしよう。そうすれば、両足がないまま生まれたことになるのだから文句はない」ということにしたのです。そこで自分に言い聞かせるために、「本日ただいま誕生」というすごい考え方を発見したのです。足がちゃんと動いていれば良かったと考えているうちは、小沢さんは変わることはできなかったと思います。「本日ただいま誕生」と考えて、本当に新しい気持ちになったときに変わることができたのではないのでしょうか。今までのことは忘れて新しい未来を求めたことは、皆さんも参考にすることができると思います。

3学期は、1学期や2学期と比べると、学校に来る日は少なくなります。特に6年生は後50日で卒業式です。次の学年がもうすぐそこまで迫っています。一人ひとりが目標をもち、多くのことを学び、自信をもって次の学年に進学・進級できるよう応援しています。